

和名：チチュウカイミバエ

学名：*Ceratitis capitata* (Wiedemann)

英名：Mediterranean fruit fly

### 分布

ヨーロッパ、アフリカ、中央・南アメリカ、オーストラリア、イスラエル、シリア、トルコ、ハワイ等

### 寄主植物

カンキツ類、ナシ、ブドウ、リンゴ、パパイヤ、マンゴウ等の果実類、ウリ類、トマト、ナス等の果菜類等極めて広範囲

### 形態

成虫は体長約4.5～5.5mmである。複眼は青輝色、体は胸背部を除き黄褐色。胸部はほぼ長方形で灰白色は光沢のある鮮明な黒斑がモザイク状になり、一見ドクロマークの様に見える。腹部背面は黄白色で、2本の銀色の横帯がある。脚は黄褐色。前翅は透明であるが、全面に黄褐色の黄帯と淡褐色の斑紋があり、基部には黒褐色の点状斑と線が不規則に分布する。卵は光沢のある乳白色で、湾曲した長円筒形、長さは約1mmである。幼虫は乳白色で、老熟すると黄色になる。体長は1齢幼虫では1.0～2.5mm、老熟すると約9mmになる。蛹は他のミバエ類と同様、3齢幼虫の脱皮殻で覆われるいわゆる困蛹を形成し、長さ3.5～4.9mmの俵状。色は通常褐色～暗褐色である。

### 生態

年間の発生回数は気温に左右され、ハワイで年12回、中部ヨーロッパで年1回程度の発生である。雌成虫は、4～10日間の産卵前期間を経て交尾産卵を開始する。産卵は、果皮の内側に産卵管を差し込んで行い、1回の産卵数は通常2～4個である。自然状態における1雌の総産卵数は、通常300個程度である。卵は、27～28℃では30時間程度でふ化し、幼虫は果実内を食害して10日前後で老熟する。幼虫は、3齢までを果実中で生育し、その後脱出して土中に潜り、困蛹の中で4齢期を過ごした後、蛹化する。4齢期間を含んだ蛹期間は、通常10～15日間である。雄成虫はトリメドルアに強く誘引されるため、トラップ調査の誘引剤として使用されている。

### 被害

成虫は、通常アブラムシやカイガラムシの分泌物、果汁等をなめて生活している。幼虫が果実内部を食害する。被害果実の多くは腐敗して落果し、時に壊滅的な被害をもたらすことがある。



図 チチュウカイミバエ  
成虫（上）、幼虫（下）